



こどもの視力の発達

こどもの視力

生まれたばかりの赤ちゃんの視力は、目の前がぼんやりと見える程度です。

生後3か月：0.02~0.03

生後6か月：0.04~0.08

生後8か月：0.1程度

1歳：0.2前後

2歳：0.5程度となり、3歳になると1.0近くになります。

個人差もあるのですが、こどもの視力はからだの発達と共にだんだんと発達していきます。

3歳児検診は重要です

上記のように、こどもの視力はだんだんと発達し、6歳頃までにほぼ完成されます。

乳幼児期は目の発達の面でもとても重要な時期と言えます。

3歳児健診は、生後はじめて視力を測る機会でもあり、目の発達を知るためにとても大切な健診。視力の発達に異常があった場合、いかに早く発見し、目の発達を阻害する要因を早く取り除くことができるかが重要となります。発見が早く、治療開始年齢が低いほど治療効果に期待が持てるそうです。

気になる症状があれば早めの受診を！

乳幼児は見え方に異常があっても訴えることができません。

早期発見・早期治療にもつながるので、気になる様子や症状がある場合には3歳児健診を待たず早めに受診しましょう。

注意すべきこどものしぐさや症状

- *目を細めてみる
- *片目をつむる
- *テレビに近づいて見る
- *首を曲げる・頭を傾けて見る
- *まぶしがる
- *ひとみが白く見える・光って見える
- *黒目の位置がおかしい
- *目がゆれる
- *目やに・涙が出る

